

## OPPA モデルの開発 —(第1報)プログラム・マネージメントを 応用した新しいモデルの開発の試み—

○松岡奈保子, 藤田孝一, 中村譲治, 岩井 梢  
NPO 法人ウェルビーイング

(索引用語: OPPA モデル, プログラムマネジメント, 地域保健)

口腔衛生会誌 54 (4), 2004

はじめに:

立案された保健計画が住民の主体的な活動に結びつきにくいことが指摘されている。このことは保健領域のみならずあらゆる領域で共通する問題であると思われる。計画を実際に実施できる「実現力」を生み出すために MIDORI モデルにプログラム・マネジメントの考え方を導入し、簡略で計画から実施へとスムーズに移行し、その進行管理を容易にする手法の開発を試みたので報告する。

簡略化モデルの概要:

MIDORI モデルを簡略化したモデルの構造は図1に示すように最上位に目的の決定 (Objectives), 以下順に健康課題の設定 (Program), 行動目標の優先順位付けと目標値の設定 (Project), 活動計画策定 (Action) の4つの Phase からなり、これに実施・評価を加えた5つの Phase から構成される。Phase 1 から Phase 3 までの進め方は MIDORI モデルの社会診断から行動・環境診断までと同様である。Phase 4 ではプロジェクトを達成するための具体策を MIDORI モデルの環境、準備、強化、実現の各因子を念頭に置き抽出する。PHASE 5 の段階は複数のプロジェクトを統合管理するプログラム・マネジメントの領域となる。プログラムの定義は「長期的な目的 (Objectives) に従って戦略を実現するための活動」である。

モデルの特徴:

策定された計画が住民の主体的な活動に結びつき、実行されるためには、問題の共有化、目的の共有化、役割の明確化という三つのステップが必要である。この三つの共有化を促進するツールとして3つの様式で構成される活動計画カードを開発した。様式1では目的と現状の文章化を行う。文章化により活動が目的から外れず、アイデアが現実から乖離しないようになる。様式2では活動内容の欄を細かく分類せず活動内容の多様性に対応できるようにしている。以上の様式で

記入していくと自ずと次回の会議までにやるべき事やその役割が明確となり計画が自然と実施へと移行していく。そのプロセスを記録するのが様式3である。記録されたものはプロセス評価のための情報源となっていく。

モデルの活用:

我々は、複数の市町村でこのモデルを利用した保健計画の策定支援を行っている。その中で、活動計画カードを活用することで種々の地域活動が主体的に立ち上がることが観察されている。幾つかの市町村ではプログラム・マネジメントを住民と共に実施する段階に入りつつある。このモデルはプログラム・マネジメントの考え方を導入し開発したモデルであるため、地域における住民参加による計画実施の場面以外でも応用が可能だと考えている。例えば、歯科医院の運営システム改善、様々な組織が行う活動の進行管理及びその組織運営など、広汎な分野で参加する人間の実現力を引き出すツールとして活用できる可能性があると考えている。

